

資料(A)文字数：1468 字

資料(B)文字数：1136 字

資料(E)文字数：575 字

資料(F)文字数：343 字

合計：3522 字

解答例

1

①「すきま」があることによって、見通しがよくなり、個々の位置関係を明確に把握することができるようになること。(53 字)

②あらかじめ決められていない部分を埋めるために、想像力を働かせる余地が生まれ、よりよいものを生み出す契機が得られること。(59 字)

採点基準 下線部の内容（文言が違っていても内容次第では採点対象とする）がない場合にはそれぞれ減点とする。

2

大学において行われるべきは、「役に立つとはどういうことか」といった、根本的な点を問うべき「学問」であるにもかかわらず、今日の大学や学術界では、「役に立つ」ことを至上命題とし、それに追随するかたちでの「研究」ばかりが行われており、「学問」を追求する本来の大学のありようが失われているのではないかとの疑問。(151 字)

採点基準 下線部の内容がない場合には、それぞれ減点とする。

3

正解③

【解説】

- ①2008～2012年は不景気であり、文系の志願者数が減少しているため×
- ②2015～2018年は不景気であり、文系の志願者数が増加しているため×
- ③2009～2021年はデータサイエンス系の志願者数が増加しているため○
- ④2015～2021年は文系の志願者数が増加しているため×
- ⑤③が正しいため×

4

私はこれまで所属していた大学で、地域への貢献のために公共政策学について学んできた。公共政策学は、多様な分野をあわせもって、社会問題の解決にあたることを目的とした学問である。しかし、フィールドに出て実際の社会問題に触れてみると、問題は複雑であり、何をもって「解決」とするかさえはっきりしていない場合があると分かった。この場合、安易に解決策を提示するのではなく、そもそもそれがどういった問題なのか、なぜそれが問題とされているのかといった点も考える必要がある。(227字)

採点基準 「自分の経験」がない場合には減点とする。

5

社会問題を解決するにあたっては、単一の学問分野だけでは限界がある。同時に、「学際」にこだわり過ぎるがあまり、かえって全体が見えなくなったり、即物的なテーマばかりを扱ってしまったりする場合があることも念頭に置かなければならない。それぞれの学問分野には、それぞれの利点と欠点があり、それらを認識するためにも、学際的な学部で多くのことを学びたい。また、昨今の受験の事情を鑑みると、眼前の経済状況に左右される受験生が多いようであるが、こうした姿勢はかえって問題解決を遠ざけることに繋がるのではないだろうか。私は、「役に立つ」学びに取り組むにあたって、単に目の前のことにだけ集中するのではなく、学問とは何か、役に立つとはどういうことか、

といった根本的な疑問も大事にするつもりである。 社会の茂田井へのより深い理解と、そうすることで、よりよい解決策が見つかるからである。学際的なアプローチで社会の問題に対処しようとしている岩手県立大学総合政策学部においても、様々な分野の学びを通じて、よりよい社会を作っていくために自分は何ができるのか、そのために、どういった姿勢で学問に向き合っていけばいいかを考えていきたい。(498字)

採点基準 下線部がないごとに、それぞれ減点する。

【出題意図】

本学部がそうであるように、近年の大学はいわゆる「一文字学部」や「二文字学部」が減り、多様な分野を学べることを売りにしたものが多い。ここでは同時に「学際」もまた売りにされているが、そこに埋め込まれている構造や課題にまで目を転じ、それを批判的に考察することは、受験生はもちろん、構成員にとってすら難しい。

しかし、本学部の AP に照らして言えば、「多様な事象の把握」のうちに本学部そのものの問題が含まれないで良い理由はない (AP1)。今回の出題では、建築物という身近な事例から学際について考える文章 (資料 A) と、学際研究そのものを扱った文章 (資料 B) を組み合わせることで、学際、問題解決といった本学部が掲げるミッションそのものを客観的に捉えることができるかを問うた。また、資料 C 及び資料 D は大学入試の傾向についてのもので、受験生という立場そのものをも客観視する必要を迫る作問を設定し、論理的思考をもって、その課題を記述するスキルを問うた。資料 E および資料 F は、そもそもなぜ学際が必要なのかを問う内容で、入学にあたっての学びの姿勢を受験生に再考してもらおうねらいを込めて出題した。